

総合病院国保旭中央病院新改革プランの主な内容及び進捗状況評価表

達成度：計画達成 = ○、ほぼ計画達成 = △、計画未達成 = ×

評価項目		表題及び項目内容	平成30年度		自己評価	達成度	達成度
大	中		目標値	実績値			
Ⅱ 踏まえた地域医療の構想を	Ⅳ に係る医療数値目標	(1) 医療機能・医療品質に係わるもの					
		救急搬送応需率（管内指示を除く、%）	95.0以上	99.2	目標達成。	○	
		手術件数（件）	7,900件以上	8,417	目標達成。	○	
		(2)その他					
		患者満足度（%）（外來說明）	80.2以上	81.4	目標達成。	○	
		患者満足度（%）（入院説明）	89.2以上	94.1	目標達成。	○	
5. 住民の理解のための取組み		別紙1				○	
Ⅲ 経営の効率化に係る計画	Ⅰ 経営指標に係る数値目標	(1) 収支改善に係わるもの					
		経常収支比率（%）	102.1	104.9	目標を達成し黒字を維持。	○	
		医業収支比率（%）	101.6	104.8	目標を達成し黒字を維持。	○	
		(2) 経費削減に係わるもの					
		材料費対営業収益比率（%）	25.3	27.5	抗がん剤等の高額薬品の増加等により目標未達となっている。価格交渉や効率的な材料の使用を進め、より一層高い目標を達成できるよう努めたい。（目標の比率は院外処方移行前の予測ベース）	△	
		100床当たりの職員数（人）	201.5	219.9	昨年度比正職員数ベースで医師2名、看護師を29名増員し、収支的に黒字となった。医療及び看護水準を向上させる職員を確保し、安定的な経営を行なっている。	○	
		給与費対営業収益比率（%）	46.2	45.2	目標達成。	○	
		(3) 収入確保に係わるもの					
		病床利用率（%）	90.0以上	94.9	目標達成。	○	
		平均在院日数（日）	13.0以下	13.6	目標未達。平均在院日数短縮に向け、全病的に取組んでいきたい。	△	
		入院単価（一般、円）	65,000円以上	72,372	目標達成。	○	
		外来単価（一般、円）	18,000円以上	21,238	目標達成。	○	
	(4) 経営の安定性に係わるもの						
	医師数（人）	257	253	昨年度より2名の増員を図ることが出来たが、継続して医師確保に取り組んでいきたい。	△		
	看護師数（人、常勤換算）	859.2	919.5	目標を大きく上回った。	○		
Ⅲ 組成3体に向けた取達	(1) 民間的経営手法の導入	別紙1				○	
	(2) 事業規模・事業形態の見直し	別紙1				○	
	(3) 経費削減・抑制対策	別紙1				○	
	(4) 収入増加・確保対策	別紙1				○	
Ⅳ. 再編・ネットワーク化に係る計画		別紙1				○	
Ⅴ. 経営形態の見直しに係る計画		別紙1				○	

	平成30年度		
	目標（当目標は平成28年度に策定されております。）	実績	達成度
5. 住民の理解のための取組	医療に関する専門分野の知識を活かした講座等の開催や住民からの講師の派遣依頼に対応するとともに、広報誌やホームページを通じて旭中央病院のおかれる救急体制と重症者優先の取組みに理解を求める。	市民健康講座は4回開催し約650名の参加があった。健康づくり出前講座は19回実施し538名の参加があった。院内で「豆知識講座」を70回開催し5,120名の参加があった。広報誌「こんにちは」は4回（1号7,000部）発行した。外来担当表「インフォメーション」では「健康豆知識」コーナーを設けている。ホームページには医学関連情報や当院の広報誌を掲載した。	○
(1) 民間的経営手法の導入	地方独立行政法人化したことにより、従来に比べ予算の執行や、人員の配置に関して柔軟な対応が可能となったためこれらのメリットを活かし、新病院改革プランの目標を達成すべく経営に取り組む。	資金計画に基づき収支状況を踏まえなが優先順位の高いものから価格交渉を行い順次購入した。購入機器は当初見積額2,028,401千円から1,456,248千円となり、572,153千円の削減となった。人員配置については総務人事課及び看護局に於いて適材適所を考慮の上、適正な配置を行なっている。	○
(2) 事業規模・事業形態の見直し	今年度より地方公営企業法の全部適用団体から地方独立行政法人となった。	平成28年度より地方独立行政法人に移行し、そのメリットを活かしながら全般に渡り経営努力した結果、引き続き黒字を維持することが出来た。	○
(3) 経費削減・抑制対策	① 後発医薬品の採用を促進し、患者の負担軽減と旭中央病院の費用節減に引き続き努める。 ② 業務委託については、毎年度検証を行い、費用と業務を適切に管理するよう引き続き努める。 ③ 薬品費、診療材料費その他の経費について、品目ごとの使用状況、調達状況等を適切に管理し、費用の節減に引き続き努めるとともに、同種・同効能・同機能製品については統一化について検討を新たに実施する。	① 平成30年度各月90%以上を維持し、平成30年度平均で92.1%となった。 ② 予算計上された業務委託費の必要性を個々に精査し、その上で原則複数社の見積り合せ及び価格交渉を行った。当初見積額に対し11,369千円/年の削減となった。 ③ 薬事委員会に提案し削除した品目数は59品目で継続して取り組んでいる。価格についても交渉により年間ベースで269,760千円/年の削減となった。診療材料費については単価契約見積り合せ、製品切り替え、価格交渉により年間ベースで107,000千円/年の削減となった。薬品や診療材料の調達と使用実績、及びその他経費の使用は、月次で関係局・課から報告を受け、予算執行状況の把握、増減要因や対医業収益率について検討をおこなった。	○
(4) 収入増加・確保対策	① 効率的に高度な医療を提供するとともに、診療報酬改定等、制度や外部環境の変化に適切に対応できるよう医師、医事課等関係職員への研修会を引き続き開催し、常に適正な収入を確保するよう務める。 ② D P Cデータや評価係数の分析・検討を引き続き実施し必要に応じて適切な対策を講じて収入を確保する。	① 毎月、医事課（外来・入院・診療支援係別）で勉強会を実施した。また、外部での研修にも積極的に参加した。 ② 保険診療委員会を4回開催し、査定減点等やDPCコーディングの検討を行った。また、病床管理委員会において事務局・看護局と共同で在院日数短縮の検討をおこなった。	○
IV. 再編・ネットワーク化に係る計画	旭中央病院では引き続き、高度急性期、急性期を中心に担い、その他の機能については地域の医療機関と緊密に連携を取り、相互に補完しながらシームレスなケアの提供を目指す。地域の医療機関との連携体制を強化するため、地域の医療関連施設等を対象とした「地域医療者懇談会」を平成25年度以降毎年開催し、相互に意見交換をする場を設けている。	再編・ネットワーク化に係る計画については、地域医療連携推進法人制度について調査・研究を行なった。また、地域医療者医師懇談会を2回/年開催。介護等関係者も出席する地域医療連携懇談会を1回/年開催。地域医療機関との連携も継続的に推進している。昨年度後半より、空床がない状態が多くあり、平均在院に日数も延びてきている。近隣医療機関との更なる機能分化をすすめ、高度急性期・急性期を中心としたケアを提供できるようにしていきたい。	○
V. 経営形態の見直しに係る計画	地方独立行政法人化したことによるメリットを有効に活用し、医療の質、経営の質を高め、健全な経営の維持に努める。	平成28年4月より地方独立行政法人化したことにより、予算の複数年度化や職員定数等で経営の自由度が拡大した。これらのメリットを有効に活用し、中期計画や年度計画に基づき、業務改善、増収対策、経費節減等を行ない、医療の質、経営の質を高め、黒字を維持継続している。	○